

しつかりと立つ

マタイ四・一八～二二

今朝は記録的大雪となりました。車のスリップ警告音とランプがつくのを初めて見て、何事が起きたかと非常に驚きました。車でここまで来たのですが、そろりそろりと時速二〇キロ以下で走行。普段は通い慣れた道も、今日ばかりは手に汗握ったまま、約一時間半かけ到着すると、疲れがどつと沸き上がってきました。足もとが揺らぐとやはり緊張します。地に足をつけてという言葉があります、その大切さを改めて感じました。毎日往復する通勤路ならいつか慣れることもあるでしょう。しかし、人生の道は誰もが一度きり。今日の雪道のように緊張感がつきまとう。とはいっても人間、ずつと戦々恐々としていては身が持たない。どうしたらよいでしょうか？

本日の交読詩編四〇篇に見てみましょう。

「主は、わたしの足を岩の上に立たせ

しつかりと歩ませてくださった」(三節)

揺るがぬ大地に足をつけさせ、しつかりと歩ませてくれる方、主がおられるということです。

この主が共におられると知った時、私たちは一回きりの人生を、安心して歩み通すことができ。そんな安心感をきつと最初の弟子たちも感じ取ったのでしよう。それまで自分の人生を支えていた網を捨ててまでイエスにお従いする姿が今日のマタイ福音書にあります。

「わたしについて来なさい」(一九節)

主自ら、私たちを呼んでくださった。

「人間をとる漁師にしよう」。

主自ら、目標を定めてくださった。責任をもつて招き、道を示してくださいる主がおられる。だから私たちは信頼し、安心して、「地に足をつけて」歩むことができるのです。